

平成25年(ワ)第515号, 同第1476号, 同第1477号

損害賠償請求事件(国賠)

原 告 遠藤行雄 ほか46名

被 告 国 ほか1名

第5準備書面の訂正について

平成28年11月28日

千葉地方裁判所民事第3部合議4係 御中

被告国訴訟代理人弁護士

被告国指定代理人

樋 渡 利 美



新 谷 貴 昭



村 橋 摩 世



大 友 亮 介



桐 谷 康



川 上 洋 一



後 藤 寿 行



細 川 全



前 沢 智 樹



田 原 昭 彦



早 田 祐 介




































宇 波 なほ美




安 岡 美香子



野	田	谷	大	地	
泉	地	賢	治		
伊	藤		涉		
進	藤	晶	子		
松	本	和	典		
平	野	浩	伸		
江	本	満	昭		
櫻	井	良	則		
中	澤	由	理子		
齋	藤	圭	一		
二	宮	哲	人		
小	林		勝		
高	橋	正	史		
小	川	哲	兵		
武	田	龍	夫		
田	中	博	史		
矢	野		諭		
仲	村	淳	一		
内	山	則	之		
世	良	田	鎮		
豊	島	広	史		

谷	川	泰	淳	
小	野	祐	二	
布	田	洋	史	
足	立	恭	二	
荒	川	一	郎	
忠	内	巖	大	
止	野	友	博	
小	野	雅	士	
岩	田	順	一	
鈴	木	健	之	
船	田	晃	代	
安	達	泰	之	
森	野	央	士	
大	瀧	拓	馬	
住	田	博	正	
白	津	宗	規	
服	部	翔	生	
高	野	菊	雄	
伊	藤	弘	幸	
京	藤	雄	太	
田	口	周	平	

水 越 貴 紀   
福 島 正 也   
土 佐 怜 生 

被告国の平成26年2月14日付け第5準備書面中の主張に、以下のとおりの誤りがあったため、被告国は、本書面において主張内容を改める。

なお、略語については従前の例による。

## 1 主張の誤りの部分

被告国は、平成26年2月14日付け第5準備書面第3の1(3)イ(ア)第二段落(47ページ)において、「この指示を受けて被告東電は、同月26日、改善計画を提出し、平成20年2月までに化学消防車2台及び水槽付消防車1台を被告東電柏崎刈羽原子力発電所に配備するとともに、防火水槽を複数箇所に設置し、平成22年6月には、同発電所の各号機のタービン建屋等に消化系につながる送水口を増設した。さらに、平成22年7月頃、発電所対策本部を設置する緊急時対策室を事務本館から免震重要棟に移転した。」との主張をしたが、被告東電が上記対策を行ったのは「柏崎刈羽原子力発電所」ではなく「福島第一発電所」の誤りであったほか(甲イ第2号証・政府事故調査中間報告書・本文編438ページ)、誤字が確認された。

## 2 訂正後の主張

そのため、被告国は、上記1記載の主張を、「この指示を受けて被告東電は、同月26日、改善計画を提出し、平成20年2月までに化学消防車2台及び水槽付消防車1台を福島第一発電所に配備するとともに、防火水槽を複数箇所に設置し、平成22年6月には、同発電所の各号機のタービン建屋等に消火系につながる送水口を増設した。さらに、平成22年7月頃、発電所対策本部を設置する緊急時対策室を事務本館から免震重要棟に移転した。」に改める。

以上